

Protozoology Newsletter

April, 2009

日本原生動物学会会報 (No. 16)

URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jsproto/>

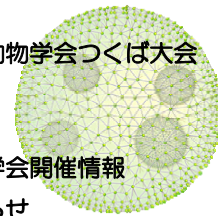
第42回日本原生動物学会大会(石巻)のご案内(第1報)

第41回日本原生動物学会つくば大会報告

若手の会だより

原生動物学関連の学会開催情報

事務局からのお知らせ



第42回日本原生動物学会大会(石巻)のご案内(第1報) 大会長 芳賀 信幸(石巻専修大学 理工学部)

第42回日本原生動物学会大会は以下の要領で開催する予定です。東北での開催は、第6回、第32回仙台大会と第26回石巻以来です。三陸自動車道の開通で仙台-石巻間が車で45分で繋がりと、とても便利になりました。会員の皆様には奮ってご参加くださいますようお願い致します。

- 1. 会期** 2009年10月30日(金)～11月1日(日)
- 2. 会場** 石巻専修大学 5号館 3階
- 3. プログラム**
10月30日(金)
12:00～20:00
若手の会、評議員会、若手・評議員会合同懇親会等
10月31日(土)
09:00～15:00
一般講演(12:00～13:00 昼休憩)
15:00～18:00
総会、学会賞・奨励賞授与式、学会賞受賞者講演、シンポジウム等(予定)
18:30～20:30
懇親会(石巻グランドホテル 2階)
11月1日(日)
09:00～15:00
一般講演(12:00～13:00 昼休憩)
- 4. 大会参加費 懇親会費**
大会参加費、懇親会費、学会費は、大会当日、受付(5号館3階)にて支払いをお願いします。
大会参加費: 一般会員 3,000円 学生会員 1,000円
懇親会費: 一般会員 5,000円 学生会員 3,000円
- 5. 申し込み**
参加と発表の申し込み締め切りは、**2009年9月30日(水)**です。詳細はニュースレター17号等にてお知らせします。

- 6. 発表**
液晶プロジェクターを用いた口頭発表 [原則として全ての発表を口頭で行います。ただし、発表数が多い場合には準備委員会の判断で一部の発表をポスター発表とします。主たる発表者(口頭発表の登壇者およびポスター発表の主な説明者)としての発表は、1人1題に限り、発表は当学会員に限られますので、非会員の**講演希望者は入会手続きを済ませてから講演申し込みをしてください**(入会手続きについては学会ホームページをご覧ください。)]
- 7. 宿泊**
大会事務局では特にホテルを予約してはおりません。(会場周辺にはホテル・旅館等各種ございます)
- 8. 大会事務局**
〒986-8580 石巻市南境新水戸一番地 石巻専修大学 理工学部 第42回日本原生動物学会 大会事務局 芳賀 信幸
Tel: 0225-22-7716 / Fax: 0225-22-7746
E-mail: haga@isenshu-u.ac.jp
準備委員会委員: 芳賀 信幸、柳 明、阿部 智顕、千葉 裕太、佐々木 裕愛
- 9. アクセス**
 - 東北新幹線 仙台駅下車、仙台からはJR仙石線 石巻駅下車、または仙台-石巻高速バス 石巻駅下車
 - 東北自動車道 - 三陸自動車道 - 石巻河南インター
 - 仙台空港 - 空港仙台駅連絡列車 - 仙石線 石巻駅下車
 - フェリーは仙台港着で、フェリー埠頭からタクシーで仙石線 多賀城駅まで。多賀城駅からは仙石線で石巻駅まで。

第41回日本原生動物学会つくば大会報告

大会長 沼田 治(筑波大学 生命環境科学研究科)

2008年11月1日(土)から3日(月)の3日間、秋だけなわの筑波で第41回日本原生動物学会つくば大会が開かれました。1989年の国際原生動物学会以来の原虫学会でしたので、私には感慨深いものがありました。国際原生動物学会の大会長は先ごろお亡くなりになった樋渡宏一先生でした。樋渡先生ほど日本原生動物学会を愛した方はいなかったのではと思います。心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

第41回大会では大会の活性化を目的としてシンポジウムを企画し、東京大学の廣野雅文先生、広島大学の細谷浩史先生、日本獣医生命科学大学の今井壯一先生に最新のお話をいただきました。学会の発表は若手研究者や大学院生によるものが多く、大家と呼ばれる先生方のお話を聞く機会が少ないことを残念に思っていました。そこで、大会の活性化ということを目処として、かねてからお仕事の内容を詳しくお聞きしたいと思っていた先生方に講演をお願いした次第です。私の専門が細胞骨格なので廣野先生のBasal bodyの話、細谷先生の細胞分裂と原形質流動の話と分野が偏っていたことは否めません。しかし、先生方の興味深い話に皆様も満足していただけたのではとっております。

もうひとつの企画は地域貢献を目的とした市民公開講演会「文化の日に、ミクロの生き物が贈る!地球-生命-人類の持続的生存のための新しいサイエンスを目指して」の開催です。このシンポジウムは原生動物と藻類の接点もテーマにしており、原生動物学会長の藤島政博先生、「藻類30億年の自然史」の著者である井上勲先生、石油を作る藻類研究のバイオニアである渡邊信先生に講演をお願いしました。企画者はこのシンポジウムで原生動物(プロティスト)の観点からみると「原生動物も藻類も同じ仲間なのだ」というコンセプトを発信したつもりです。皆様はどのような感想を持たれたのでしょうか?

そして、もうひとつ特筆すべきことは、この大会からBest Presentation Awardがスタートしました。審査員の先生方は熱心に採点しておられましたが、よい発表が多く、選ぶのに苦労したのではと思います。兵庫県立神戸高校の西垣真美子さん、松元里樹さん、矢頭卓見さん、そして神戸大学の洲崎先生のポスター「ミドリソウリムシの細胞内共生クロレラは共生することで細胞壁が変化する」と金沢大学の明松隆彦さん、遠藤先生の口頭発表「テトラヒメナの核アポトーシスの初期過程の実行因子はミトコンドリアに存在する」の2つが受賞しました。高校生の研究がBest Presentation Awardに選ばれたことは画期的なことで、「若手を勇気づけ励ます」というBest Presentation Awardの当初の目的は達成されたと思います。しかし、私は大学院生や若手研究者のさらなる奮起を求めます。高校生に第1回の賞を持って行かれたことを悔しく思ってください。将来の生物学を背負って立つ諸君に研究に対する



さらなる情熱と自己に対する厳しさを求めたいと思います。独創的なおもしろい研究、迫力のある研究をして下さい。「若者達よ、常識や先入観のくびきを断ち切り、自由に羽ばたき自分自身の研究世界を作れ。」と言いたいと思います。

もうひとつ、小さな工夫です。プログラムの表紙を見てお気づきでしょうか?そう、表紙の図と写真は平成20年度の奨励賞受賞者のKim Oanhさん(奈良女子大学、現所属 バトナム科学技術大学院バイオテクノロジー研究所)と児玉有紀さん(筑波大学、現所属 山口大学)から提供してもらったものです。お二人にとってはよい記念になったのではと思います。

今回の大会はポスター35題、口頭発表15題、Jacek Gaertigジョージア大学教授の特別講演“Deciphering the tubulin code in *Tetrahymena*”、学会活性化委員会によるシンポジウム、市民公開講演会と盛り沢山の内容でした。その結果、口頭発表の時間が少なくなり、演題数を絞ることになってしまい、多くの方々にポスター発表に回ってしまいました。口頭発表からポスター発表に回った方々には改めてお詫言申し上げます。

ポスター会場も口頭発表会場も満員で議論も白熱し、その熱気は素晴らしいものでした。小さい学会の良い点が沢山ある学会でした。おかげさまで参加者は200名を越し、用意したプログラムや名札が足りなくなるほどの盛況でした。懇親会のお料理もすぐになくなってしまいました。参加者の人数を低めに見積もっていた事務局はてんてこ舞いでした。まさにうれしい悲鳴でした。

学会員の皆さまの積極的な参加とご協力によって、良い大会を開催することができました。皆様に事務局一同、心から感謝いたします。石巻で皆様と再会することを楽しみにしております。



若手の会 つくば大会も大盛況のうちに幕を閉じました！

2008年11月1日(土)、筑波大学で若手の会ワークショップと若手の会オムニバス勉強会が開かれました。発表して下さった先生方、若手研究者の方、そしてご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。今回のワークショップは、大会長の沼田先生と相談し、初めて本会評議員会と開催時間が重ならないようプログラムを組むことができました。そのため、多くの先生方にご参加いただくことができ、例年よりもさらに白熱した議論がなされたように思います。ワークショップの演者の方々にいただいた様々なタイプの研究発表も、とても興味深いものでした。ワークショップは次回も開催する予定です。詳しいことは次のニュースレターでお知らせしますが、我こそは！という方は今の内からアピールしていただければ嬉しいです。また、オムニバス勉強会は初めての試みでしたが、研究者である学会員の先生方や、非学会員の先生の貴重なお話を聞くことができ、とても勉強になったと思います。このような企画が皆様の研究にとって良い刺激になれば幸いです。

若手の会の運営は現在5人のスタッフによって行なわれています。神戸大の福田さんと富山大の久富さんを新たに迎えて、若手の会、再始動です。次の石巻大会でも新しい企画を発信できるよう、頑張っていきたいと思います！それでは今期も若手の会をよろしく願いいたします。



発表者・参加者の皆様、ありがとうございました！！

2009年度 若手の会役員は5人組！ 石巻でお会いしましょう！

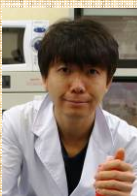
会長

役員

役員

New!
役員

New!
役員



新役員 就任のごあいさつ

福田 康弘

皆様、こんにちは。日本原生動物学会若手の会役員として任命いただきました福田康弘です。「若手」と言ってもいい歳なのか、少々申し訳なく思っていたりもしております。とにかく、この先の原生動物学会を盛り上げて行くため、そして世界で一番元気がいい研究者は日本人だと思われる様に粉骨砕身の心構えで臨んでいくつもりです。どうぞ、よろしくお願い致します。

久富 理

今回、石巻大会の若手の会の役員を務めさせていただくことになりました久富です。現在参加している人やこれから参加していく人たちが、良い刺激を得られるようにがんばりますので、よろしくお願い致します。

杉田 真希

西上 幸範

末友 靖隆

福田 康弘

久富 理

筑波大学大学院

兵庫県立大学大学院

岩手県立ミクロ生物館

神戸大学大学院

富山大学大学院

若手の会 石巻大会情報は、次号ニュースレター内で詳しくお知らせします！



市民公開講演会「文化の日に、ミクロの生き物が贈る!地球-生命-人類の持続的生存のための新しいサイエンスを目指して」

原生動物学関連の学会開催情報

第4回日本進化原生生物学研究会 (JSEP) のお知らせ

研究会ホームページアドレス <http://square.umin.ac.jp/jsep/>

2009年7月4日(土)～5日(日)、国立大学法人宮城教育大学にて、第4回日本進化原生生物学研究会が開催されます。皆様の参加をお待ちしております(発表申し込み締め切り日: **2009年5月31日**)。また、お知り合いで「原生生物」「進化」というキーワードに興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、情報をお知らせいただけますようお願いを申し上げます。2010年には、国際原生生物進化学会 (I S E P) が金沢で開催されます。来年度に向けたステップとしての大切な研究会大会ですので、ご興味をお持ちのより多くの皆様のご参加をお待ちしております。詳しくはwebサイト (<http://sites.google.com/site/jsep2009/>) をご覧ください。

宮城教育大学 島野 智之

FASEB Summer Research Conference 「繸毛虫の分子生物学」のお知らせ

2009年7月19(日)～24日(金)に、標記の学会が開催されます。参加登録締め切りは**6月1日(月)**です。詳しくは<http://src.faseb.org/>まで。

事務局からのお知らせ

日本原生動物学会会長および評議員選挙のお知らせ

日本原生動物学会会則第5条により、現会長および評議員は今大会(2009年11月1日)をもって3年の任期を満了致します。このため、今年中に次期(2009年11月2日から3年間)の会長および評議員の選挙を行う必要があります。学会事務局より、8月初旬にニュースレターと一緒に有権者の皆様に、投票のご案内および投票用紙をお送りします。その案内をご覧いただき、個人会員のうちから会長1名および評議員10名以内の候補者氏名を、同封の投票用紙に列記し、本学会事務局までご返送いただく予定となっております。投票の締め切りは**2009年9月15日(火曜・必着)**の予定です。漏れなく投票いただきますよう、ご協力のほど、宜しくお願ひ申し上げます。

庶務担当評議員 松岡 達臣

編集・刊行 日本原生動物学会 編集局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学生命薬学部内 (編集委員長: 今村 信孝)
Tel / Fax: 077-546-2825 E-mail: imamura@ph.ritsumei.ac.jp

ニュースレター編集担当 末友 靖隆 (岩手県立ミクロ生物館)

E-mail: suetomo@shiohaze-kouen.net

ニュースレターに関するご意見、ご感想等お待ちしております。

ニュースレター16号の詳細版は日本原生動物学会ホームページよりダウンロードできます。画像情報がより豊富なものとなっております。こちらもぜひご覧ください。
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsproto/journal/nl-16/NL16.pdf>

